

平成27年7月1日

「学校ボランティアがつなぐ福島ラウンドテーブル」の開催について

いま、教室では、教え覚える「学び」から思考判断表現する「学び」への転換が求められています。学校ボランティアを核にして、学生、新任教師、中堅ベテラン教師、研究者が、教室の出来事をありのままに語り合う中から、どの子も輝く教室を創り出すための新しい発見が見えてきます。

学び続ける教師コミュニティをつくり、教師養成・教師力向上に役立てます。

福島での教育が復興し創造されるためには、小学校から大学まであらゆる段階で未来型創造教育が求められています。そのための確かな教育方法の柱としてアクティブ・ラーニングが必要です。

福島大学(以下大学)は、平成17年度に福島市と、その後郡山市、伊達市、今年度国見町と学校ボランティア協定を締結し、学生が学校を支援しながら学生も実践的指導力を高める活動を推進しています。

平成26年度に、大学は学校ボランティアを一定程度活動した学生に学校教育支援実習として単位を認定することになりました。

昨年度は、3市で50校から希望があり、43名の学生が14校でのべ439日活動し、学校も学生自身も役立ったと高く評価しています。

学生は、学校ボランティアをとおして、子ども、授業づくり、学級づくりと向き合い、学校現場の体験と大学の知を往還しながら実践的な「学び」をしています。

6名の4年生は、4月から新任教師として教壇に立って、無我夢中で日々奮闘しています。

中堅ベテラン教師は、経験を積み重ねながら、新しい教育にどうつなげたらよいか悩んでいます。

教室にアクティブ・ラーニングを届けるのは教師です。学生、教師、研究者が、思う存分教室の出来事を報告し聴きあい意見を交流しあう中から新たな方策が見えてきます。

日時	平成27年8月8日(土) 10:00~16:30
会場	福島大学 人間発達文化学類棟 3階 315教室

(お問い合わせ先)

人間発達文化学類研究員

教育実践支援コーディネーター 齋藤 幸男

電話: 024-504-2112

メール: ysaito@educ.fukushima-u.ac.jp

主催 福島大学人間発達文化学類 学校ボランティア支援室

2015 学び続ける教師コミュニティ 夏

学校ボランティアがつなぐ福島ラウンドテーブル—どの子ども輝く教室をつくろう—

学生は、学校を支援しながら学校の出来事を丸ごと体験しています。大学の知と学校現場の体験とを往還しながら実践的な「学び」をしています。

新任教師は、いま、子どもたちと向き合い、大学の「学び」を引き出し、同僚の先生方に聞きながら奮闘中です。

中堅ベテラン教師は、多忙な中にあっても魅力ある授業をしようと、毎日小さな工夫をこらしながら実践しています。

大学から学校への接続をスムーズにし、たえず学び続ける教師のためにラウンドテーブルがあります。

学生と新任教師、中堅ベテラン教師、研究者が一同に会して、どの子ども輝く教室をつくるために教室の出来事を思う存分に語り合しましょう。

参加対象 学生、教師、研究者

10:00～11:00	実践報告
11:10～12:00	新しい授業づくり
12:00～12:45	昼食・休憩
12:45～16:00	小グループによる徹底話し合い
16:00～16:30	まとめ

福島大学
人間発達文化学類棟
3階 315教室

平成27年8月8日（土）

10:00～16:30

（お問い合わせ先）福島大学人間発達文化学類学校ボランティア支援室
TEL 024-504-2112 e-mail 齋藤幸男(ysaito@educ.fukushima-u.ac.jp)
二瓶洋允(hnihei@educ.fukushima-u.ac.jp)

語ることによって整理し、耳を傾け問いかけることによって新たな発見をする

学び続ける教師

私たちは、3・11 大震災・原発事故から人の生命の大切さを教訓とし、誰もが安心してくらせる社会を創っていかうと動き出しています。

子どもたちは、次の世代の担い手です。教え覚える「学び」から思考判断表現する「学び」へと転換し、どの子ども新しい住みよい社会を創る担い手として育てていくことが求められています。

学生は、学校ボランティアをとおして、子どもとの接し方にとまどい、叱り方や授業づくりに悩み、カンファレンスをとおして悩みを課題にして探究しています。

新任教師は、毎日が新しい出来事の連続で無我夢中で過ごしています。

中堅ベテラン教師は、多くの経験を積み重ねながら、新しい教育にどうつなげたらよいか悩んでいます。

どの子ども輝く教室を創り出すために、教育研究の最新知をもとに、学生、教師、研究者が、教室の出来事をありのままに語り合う中から新しい発見が見えてきます。

「新しい授業づくりに挑戦しよう」事例

中学 2 年保体「800m 走 私のペース戦略」
葛西巧先生（信州大附中）は、「800m 走」を素材に、仲間とともに気づきを伝え合い、願いを共有しながら運動の楽しさを味わっていく学習にデザインします。

井川さんは、はじめ苦手意識をもっていました。仲間と 200m ごとのスピリットタイムをとりあい、グラフ化し比べあうことで自分のペース配分に気づき、仲間の声援を受けて記録をのばすことに成功します。「自分が変わっていくのがわかるところおもしろい」と 800m 走の楽しさを味わい始めます。



子どもに寄添って支援します。



4 月から、5 年の担任です。



「学校ボランティアを語ろう会」は、3～4 人で

出来事や悩みを 60 分間語り合います。

メニュー

<開会行事> 10:00～10:10

<実践報告> 10:10～11:00

現職教師が、実践報告をします。

<新しい授業づくり> 11:10～12:00

講師 一柳 智紀 先生

（新潟大学教育学部教育科学講座准教授）

<ラウンドテーブル> 12:45～16:00

i) 1 グループ 4 人程度で組みます。

多様なメンバーで構成します。

ii) 3 時間 15 分語りつくします。

はじめに報告する内容を紹介しあい、ファシリテーターを中心におよその時間を配分してから話し合いを始めます。思う存分教室の出来事を報告傾聴しあい、意見を交流しあいます。

ファシリテーターは、現職院生、研究者が担当します。メンバーとは、運命の出会いです。

<まとめ> 16:00～16:20

グループ間の意見交流をします。

<閉会行事> 16:20～16:30

☆準備物

抱えている課題や取り組んでいる内容を、A4 版 1 枚程度にまとめて 40 部持参ください。